

少年会館落成式式辞

本日、はるばる東京から総務長官代理、特達局長、
 務課長、林忠元、東京大学総長、茅誠司先生、全国連
 合小学校長会会長、村山伊之助先生、全日本中
 学
 校長会会長、小林茂先生、全国高等学校校長協会
 会長、成田善英先生、日本私立中学高等学校連合会
 副理事長、棚橋勝太郎先生、東京都公立小学校長
 会長、近藤修博先生、東京都中学校長会会長、幸田
 勝先生、東京都立高等専修学校校長協会事務局長、
 田中伊藤先生、一行をお迎えし、
 落成式を挙げる。

園行政主席、長嶺立法院院長、山本南道、事務局長

殿、民政府フイック教育局長、おはじめ、多敷系
 賓各使、の幅帯のものと、沖繩少年会館の落成
 式をかくも盛大に挙行することおめでとうございます。
 とは、和の最光栄に存じ、感激いたすこと、こ
 ろでありませう。
 沖繩の子供たちのための社会的教育施設とし
 て、少年会館の建設は、私ども、多年の夢であり
 ました。然し、原は、沖繩の二十数万人の児童
 生徒を対象とする教育的施設とす。

小規模の規模に相当大きくするのめりやうが、
 敷地の環境的に健全な場所が得られな
 れば、そのまゝいし、また施設内容も充分教育
 条件を充たす施設を建設していくために、
 条件を充たす施設を建設していくために、
 莫大の資金を必要とするのであります。と
 ころが、沖繩子供を育む会として、そのための
 資金は一文の持ち合せもなく、かつたのであり
 ます。それにもかかわらず、競えて本施設を
 自體の力力によつて解決していくためには、結局
 多額の入札と、呼びかけて、津財のご寄付を
 いただき、資金を造成する以外は道はないので
 あります。そこで、沖繩と本土にわたる広汎な
 募金運動を計画し、二ヶ年有事を要しての募金
 運動の展開と行つたのであります。計画を進
 めていくに、施設の構想も、概々大まか大まかな結果
 において、所要資金も四十五万、即ち一億五千
 円以内以上の膨脹し、これだけの資金を強ひ募
 金のよつて造成するといふことは、累年の進
 感にもいたしませんでした。然し、なほ、いかん困難

が伴うとして、教育諸条件に恵まれない沖縄
の子供達のために、夫、この種の施設の不備、貧
困を補うための是が非でもこの計画は実現
しなればならぬ宿命的課題として不退却
の決意を述べてこの運動に當つて参つたので
ありませう。幸にして沖縄例募金は児童生徒、教
職員、婦人会、市町村、区教育委員会等の組織募金を
はじめとして、強者に賛同してくだつた賛
志の会社や個人のご寄付、篤り積極的ご協力を
得て先ず順調な成果を収めました。感謝の
特

20x20

この募金運動は本工において予想以上の成
功的を収めました。いかに情熱とある沖縄
におかれて、日本国産正教育についていくといふ上、
用ひ知れず、この種の事業を述べたう、
昨未見有とす。本工におけるこの運動は南
方同胞援護会の絶大なるご好意とご協力をよ
つて進められたありませう。南方同胞援護会
ご計画にありまして、二ヶ年におつて日本自
務車振込会から多額な資金を交付していただき
ました。これに力を得て、更に

同援

護会のお世話で大浜先生を代表者として募金
 委員会を結成し大浜先生が先頭に立ち一
 般大口募金が始まりました。その大勢は大
 浜先生は東京における金融経済の各関係者
 を呼び寄せ大坂、島本、有馬、山崎、大
 塚、藤田、神尾、財田、中尾、北島、長
 先生、文教、陶、軍、社、後、理、元、泰、先、生、方、も、そ、れ、が、此
 り関係の方々がたいてい呼びかけて大勢が
 集まってきました。その地在京、端、先、生、方、も、あ、り、て、お
 田、の、婦、人、会、姫、君、の、同、窓、会、等、の、協、力、も、あ、り、て、お
 落さまで本土におかれ、好成績を収めました。運動
 に参加してくださった先生方並びに募金に
 いてくださった方々、お礼の好意に銘
 いて存難く感謝と感謝で一ぱいでございます。
 更にここに特筆大書して申しあげねばならぬ
 ことは、全国小中学校、高等学校、児童生徒
 の皆、おれ、う、募、金、を、募、金、の、あ、つ、た、
 ことでありませう。その額は、実に六百
 円(即ち十札一冊)に達し、一本会館の
 資金の半額に達するから、うでありませう。これ

ことえんこことご福席。諸先生を待たせしめ
 長... 益び全国各号移... 都道府県... 協会
 かうなるご協力と... 指導... 募集
 に参加してくださった全国児童生徒の至純な
 友情が... ありませう。私にこころと思
 いをいたし... 感謝七折して... 厚く愛
 敬を... 感謝... 次刊... 厚く愛
 館... 感謝... 厚く愛
 心とご協力特々全国児童生徒の青少年
 へ送る海の友情のプレゼントとして見事な笑
 を結んだのであります。... ありませう。

幾千万の及ぶ人びとの心通るご理解とご好意と
 一激励の結果集れたシンボルとして教育上
 非常に意義をたつ施設と... ありませう。

年の健全育成の様子所となり学習の場となり
 青少年の青春の場となり交歓の場となり提携の

け橋と云ふその詞は、
 國の精神のこけと友情を身をもつて感服し
 祖國の心を感服し近感を増しその人向音
 成に直接向橋非常の大なる貢獻をなすものと
 期待するものであり、
 乃者、精神のこけを志に忘るる所以ではありま
 せん。とこゝで施設してまいりましたが、設備
 やその運営上の面では今後にも多くの問題が残
 つており、今後其精神の指導と、
 協力をお願い申し上げます。終りに本会館

建設に當つて近代的不備な技術と減費を以
 て設計監理に當つてくださつた、空里深一九
 年、アハに當つてくださつた善太郎、兼設備
 工、ハに當つてくださつた、明免社、伊生設備工、
 ハに當つてくださつた、相和商會、
 又、本会館を在、南土業者、五藤老、
 各位の、珠露の敬意を、表し、感謝を申しあげ、
 挨拶いたします。

昭和四十一年二月二十五日

神鏡子候を、守了、會會長、廣良、預、昌